

と ろ

清淨

- ごあいさつ 一瞳をひらいて、持続すること…………… 2
- 企画展示室より「多様な埼玉の生きもの」…………… 3
- 企画展「土の中のワンダーワールド」の紹介…………… 4
- 『かわはく』での活動ー特別展示の開催支援ー…………… 6
- 「ウキウキ わくわく 博物館の夏休み」…………… 7
- 表紙解説・催し物のお知らせ…………… 8

憩刮装佛涕湾、確惚韜

SAITAMA MUSEUM OF NATURAL HISTORY

%

&\$%\$"+

ごあいさつ 瞳をひらいて、持続すること

井上 肇



平成22年度当初の定期人事異動により、お世話になることになりました井上です。

鈴木敏昭前館長同様、よろしく願いいたします。

毎朝、8時丁度に長敷駅に降り立ちます。メタボ体型からの離脱をめざしての「一駅手前」行動です。結果はまだ出ません。約2時間弱の小さな旅の末には、「長敷は天下の勝地」の石碑が迎えてくれます。言わずと知れた洪沢栄一翁の筆になる秀逸なキャッチコピーです。私は、この碑文を眼にするたびに、決まってひとつの言葉が浮かんできます。些か唐突ですが、「義を明らかにして、利を計らず」です。幕末の陽明学者、備中松山藩（現、岡山県高梁市）執政山田方谷の言葉です。そして、洪沢栄一の説いた「論語と算盤」、即ち利徳合一論には、陽明学者山田方谷→三島中州（二松学舎創設者）→洪沢栄一の系譜があることが知られています。私にとって、この方谷の言葉は、さまざまな困難に直面した折、常に言動の中心に据えてきた大事な規範のひとつでもあります。

閑話休題

先日思い立って、日本三大山城のひとつ、美濃岩村城（現、岐阜県恵那市）に出かけてきました。

静謐な佇まいの城跡から眺める山並みは美しく、圧巻でした。江戸時代の終わりに、幕府の昌平坂学問所の総長を務めた佐藤一斎は、この岩村藩出身であり、その弟子のひとりが山田方谷です。

また、方谷が藩政改革の成果をあげた備中松山藩の高梁城も、三大山城のひとつです（もうひとつは、現奈良県高取町にある大和高取城）。我が故郷の近くであって、幾度となく訪れたこの城跡から眺める高梁川に沿った城下の町並みは、今なお懐かしく、時折思い浮かべる思い出深い景色です。

さて、岩村城下への道すがら、遠目に霧氷の付いたような大きな木を見つけました。後に、それ

が「ナンジャモンジャの木」であることを知りました。数年前の夏、名前に惹かれて植物園に行ったことも思い出しました。正式には、ヒトツバタゴ。同じモクセイ科のトネリコ（別名、タゴ）に似ているところから「一つ葉（単葉）タゴ」とよばれるようになったとか。日本では、対馬、岐阜県・愛知県に「隔離分布」している絶滅の恐れのある落葉高木ということも教えてもらいました。

以上、なんとなく山・町・花に因む景観話、3つ。

お話を戻します。

佐藤一斎から洪沢栄一に繋がる系譜の中で、当博物館にとって山田方谷の説いた「義」は、「博物館資料を中心に据えた、館職員と全ての利用者の幸福」ではないかと考えました。

埼玉の県立博物館施設では、平成18年度から数値目標を定めた博物館評価システムによる自己評価等を実施しています。実際に自己評価を行う中で、博物館としての「義」＝「公共空間としての博物館、そこに集う全ての人々、全資料にとっての望ましい姿」の実現に向けてひとつとして欠くことなく、本来の存在意義を主張し続けられているかどうか、をベンチマークとして念頭に置く必要性を強く感じます。数値に捕らわれすぎて、本質を忘れた思考と行動は厳に慎み、二つの瞳で現状を捉え直すことで、見えてくるものを大切にしたいと考えます。本来なすべきことに対して、当館職員が共通の認識を持ち、自らの位置を正確に把握し、改善すべきことと方向性を定め、確実に解決していくことが肝心であると思います。

かつて、自動車教習所で「遠目を定めて運転しないと、事故のもと」と繰り返し教わりました。

大きく瞳を開いて、博物館法をしっかり読み解き、その基本理念の具現化に向けて、安心・安全で持続可能な博物館運営に取り組んでまいりますので、引き続き倍旧の御支援・御協力をお願い申し上げます。

（いのうえ はじめ・館長）

企画展示室 ー多様な埼玉の生きものー

碓 井 徹

亜高山帯から低湿地まで、埼玉県の自然環境はじつに多様性に富んでいます。

この『多様な埼玉の生きもの』というテーマの展示は、年3回ほど企画的なテーマで開催される企画展の間に行う常設展的な位置づけです。

毎回少しずつ展示資料を入れ替えながら、県内の多様な環境に息づく動植物を、多彩な切り口で紹介しています。

すでに埼玉県からは絶滅してしまった動物の剥製や非常に精緻に再現された希少植物のレプリカ、外来動植物の標本や生態写真などが6つの展示ケースいっぱいに展示されています。また、およそ1,000個体ほどの昆虫も40箱を超える標本箱に整理されて展示されています。

5月14日から7月4日まで開催されている今回の『多様な埼玉の生きもの』の中から、テーマごとの見所をいくつかご紹介します。

[後世に残したい動物]

ニホンヤマネ（剥製）国の天然記念物
 オオヨシゴイ（剥製）埼玉県ではすでに絶滅したとされるサギ科の野鳥です。この剥製は、50年ほど前に県内で採集された個体です。

[後世に残したい植物（石灰岩地）]

チチブイワザクラ・チチブリンドウ・ホテイラン・ミヤマスカシユリ・キバナコウリンカ（いずれもレプリカ）

[埼玉のワシタカ類]

クマタカ・オオタカ・ノスリ・トビ・ハイタカ・ツミ・ハヤブサ（いずれも剥製）

[多様性を脅かす外来の生きもの]

ハクビシン・アライグマ・ドバト・ガビチョウ・ソウシチョウ・ブルーギル・オオクチバス・ミシシッピーアカミミガメ・ウシガエル（いずれも剥製）
 アレチウリ・オオハンゴンソウ・オオフサモ（押し葉標本）



写真1 後世に残したい動物



写真2 埼玉のワシタカ類



写真3 展示会場の全景

(うすい とおる・担当課長)

企画展「土の中のワンダーワールド」の紹介

開催期間：平成22年7月17日（土）～8月31日（火）

中 村 修 美

林の中を歩くと、梢を渡る鳥や花を訪れる虫たちに目を奪われたり、鳥のさえずりや虫の声に耳を傾けたりするでしょう。私たちの周りには、多くの生き物がいると感ずることが出来ます。

では、ちょっと道を外れて、林の中に入ってみましょう。そして、視線を自分の足下に向けてみてください。落ち葉を踏みしめています、生き物がいるように感じますか。実は私たちの足下の土の中には多様な生き物がいます。それもかなりの数です。ですが、土の中が多様な生き物の世界であることはあまり知られていません。

この展示では、私たちの身近にいながらほとんど知られていない土の中の生き物、特に動物に焦点を当て、その多様性を見ていただくとともに、自然界の中での役割を紹介します。

土の中の生き物たち

土の中の生き物というところを思い浮かべますか。よく知られているところで、ミミズ、モグラ、ダンゴムシ。ちょっと考えて、ムカデ、ヤスデでしょうか。それ以外にも、実に多くの動物がいます。例えば、トビムシ、ササラダニ、クマムシ、カマアシムシ……。こんな動物を聞いたことがありますか。土の中の動物には、アメーバのような原生動物からモグラの哺乳類までさまざまな動物がすんでいます。多くの動物は大変小さく、また、土の中で生活しているため、直接目で見るとはほとんどありません。

今回の展示では、標本や拡大模型、写真を使って「見たこともない」動物を紹介します。



肉眼で観察できる動物

左上から右下に向かって、ミミズ類、イシムカデ類、ヤスデ類、オカダンゴムシ、ヒメフナムシ、ホソワラジムシ。

土の中の動物はこんなことをやっています

土の中には多くの種類の動物が数多くみられますが、それらの動物は単に土の中にすんでいるだけではありません。いろいろな活動を行い、それが土に対して大きな影響を与えています。土が誕生し、成長・成熟し、肥沃な状態を維持できるのは、土の中の微生物や植物と動物の働きがあるからです。土の中の動物の働きは、1) 生物遺体を細かくすること、2) 土を耕し、かき混ぜること、の大きく2つに分けられます。

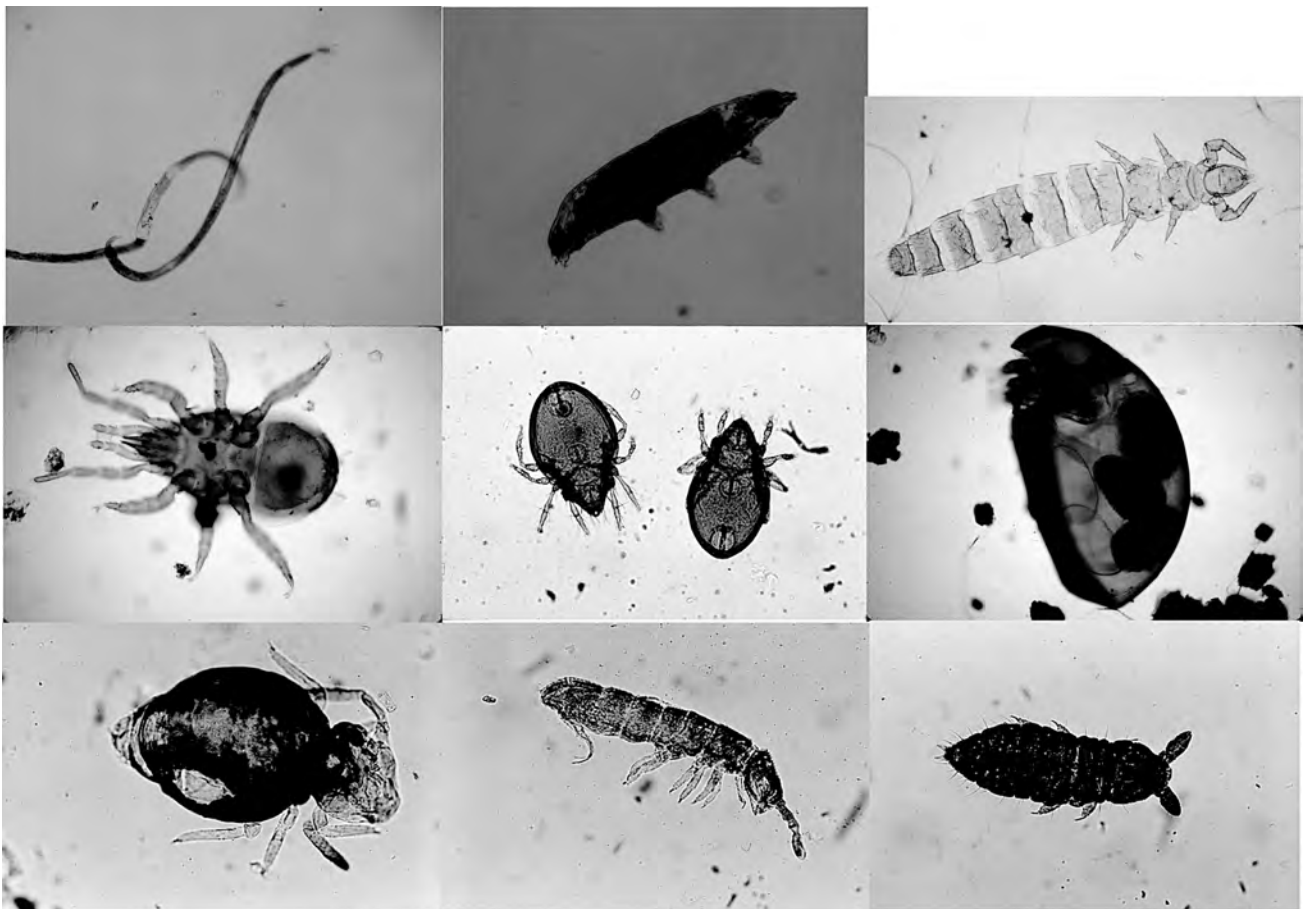
土の中にいる無数の動物は、年間を通して、昼と夜の別もなく、土の中で自分たちの作業を黙々と行っています。その働きは私たちの生活にとって重要なもので、もし土の中の動物の働きがなければ、あの緑豊かな森は続かないでしょう。

「皆越ようせい氏土壤動物写真」と講演会

動物写真家の皆越ようせい氏は土壤動物の生態写真に取り組まれています。野外で生きたままの姿をとらえた皆越さんの写真は素晴らしい芸術作品であり、土壤動物の貴重な生態記録でもあります。その迫力に驚かれることと思います。また、どうやって撮影されたのか不思議に思うことでしょう。この写真は必見です。

また、7月25日(日)午後1時30分から当館講堂で、皆越ようせい氏による講演会を開催します。プロならではの写真と軽妙なトークで土の中の動物を紹介します。直接話を聞ける貴重な機会です。是非ご来聴ください。

(なかむら おさみ・学芸主幹)



肉眼で観察するのは難しい動物

左上から右下に向かって、線虫、クマムシ類、カマアシムシ類(ヨシイムシ)、トゲダニ類(ハエダニ)、ササラダニ類(ツヤダマゴダニ)、ササラダニ類(イレコダニ)、マルトビムシ類、ツチトビムシ類、ムラサキトビムシ類

『かわはく』での活動 —特別展示の開催支援—

植 田 雅 浩

環境担当は、埼玉県立川の博物館に駐在し、川の博物館を運営する指定管理者が計画した事業の支援や収蔵庫内の資料の管理などを行っています。その一つが特別展示の企画から開催までの2年にわたる支援です。滞第11号では今年度の特別展の構想を紹介しました。本展示は日頃何気なく見過ごしてしまいがちな「葉の形」に注目した展示です。今回はその見どころを紹介します。

自然系資料のみどころ1 植物化石

最古の葉をつけたシダ植物ヒカゲノカズラ類の *Dtcicycpcvjkc"nqpi khqkc"Ncpi"gv"Eqqmuqp* (オーストラリア：シルル紀後期) をはじめ、まだ葉が分化していないシダ植物 *Ruhnqrj{vqp"rtkpegrku"Fcyyuqp* (ドイツ：デボン紀前期) や葉らしい葉の化石として最も古いものである *Ctejcgqrvgtku"tqgogtkpc" Iqgrrgtv* (ノルウェー：デボン紀後期) などを展示する予定です。いずれも国立科学博物館が所蔵する見事な標本です。



Archaeopteris roemeriana Goepfert (国立科学博物館蔵)

自然系資料のみどころ2 生ける宝石リトープス

もう一つの目玉展示は、厳しい環境に適応してとても変わった形になったリトープスです。リトープスは南アフリカやナミビアの乾燥地に生育し、極端に多肉質な1対の葉を地表に広げます。群馬県在住のリトープス研究者である島田保彦氏の協力を得て、生きた植物によるジオラマ展示を製作する予定です。このジオラマに用いる個体は、島田氏が生育地で採取した種子に由来する個体です。日本の気候に合った生育をしているため、展示期間中に開花している様子も観察できそうです。10月17日には埼玉県立川の博物館で島田氏による講演会も予定されています。



Lithops vallis-mariae (ナミビアにて島田保彦氏撮影)

このほか「葉の利用」として、貝多羅葉(加工したオウギヤシなどの葉)に写経した貝葉経や、奇妙な葉が描かれる江戸時代の園芸書、葉がデザインされた兜などの工芸品も展示する予定です。この特別展が、自然と人々の暮らしの関わりから植物を見つめ直すきっかけとなるように川の博物館と協力しています。

特別展『葉—その形と利用』

会 期 9月18日(土)～11月14日(日)
 会 場 埼玉県立川の博物館(要入館料)
 埼玉県大里郡寄居町小園39
 TEL 048-581-7333 FAX 048-581-7332
 休館日 月曜日(9/20と10/11は開館)
 開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

(うえだ まさひろ・担当課長)

！ 子 子！ 謂 浴 過 丘

】煮怖y幣蒙繰こ卿b I兄妓Q大せk T Zつや
 X X r z h y骸鳴っ羨祇bくd びサハイvすn
 q z d U v悩廓v un q bくK措七こGせくd
 y r O脹げv O窓b捨ぐT k Z I u O 銭b
 I X s z 幣蒙繰v O牢I七だf T k Z I

晶一稱諸萌焔向 鯨 一 死事萌益院
 逢 一 腕訓一磁劔 顛錚珉羨 <



鯨男					
焔	iô	iō	iō	ix	đi
估	慌	焔	焔	詐	棄

ブ グ

つkへ焔ほ つmk棄ほ
 し粥 á めよ【ろめるほ
 鯨ズ ガ ガ 鯨口

鯨男										鯨男										
đi	đđ	đñ	đò	đó	đô	đõ	đö	đx	ñi	ñi	i	đ	ñ	ò	ó	ô	õ	ö	x	ii
袖	露	慌	焔	焔	詐	棄	袖	露	慌	焔	焔	詐	棄	袖	露	慌	焔	焔	詐	棄

ビズブグ鯨

つ&へ焔ほj称と Y Y * 称と ½ojj姦

レ 栗 呷 碌 像 口

企只y Rがつつ
 おつRじK b q
 こV I っ 従ぞKや

窓捨うqikm < r

ビズブグ鯨

つへ焔ほj称と】】】】½mj j姦

レ ちて 星 グ 口

統元受鼓y台Rこy
 s I だそぜまズぜゆ
 っZ Q h Kや

窓捨うqilj < r

鯨男																				
ii	iđ	iñ	iò	ió	iō	iō	iō	ix	đi	đi	đđ	đñ	đò	đó	đô	đõ	đö	đx	ñi	ñi
袖	露	慌	焔	焔	詐	棄	袖	露	慌	焔	焔	詐	棄	袖	露	慌	焔	焔	詐	棄

ビズブグ鯨

つiへ焔ほiへ焔ほj称と】½けせじK

レ 齡 園 契 掖 勁 礎 迎 口

窓捨うu b

岐県ぐy bざT k I
 r 従njいじK略u
 t y 隸筑っ糖ぞKや

ビズブグ鯨

つiへ焔ほj称と】】】】½mj j姦

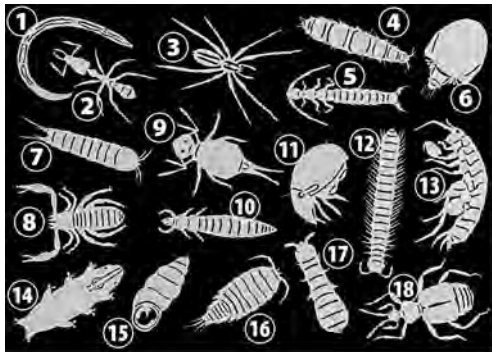
レ 鯉 儘 遜 澹 療 憲 疋 鯨 丘 口

窓捨うrikj < r

郡粗v d つ r
 I ぜ鴉っZ Q b
 q 細すKや

表紙の解説

土壌動物の切り絵



表紙は土の中の動物の切り絵です。この企画展のために萩野康則氏に作成していただきました。切り絵の動物が、どんな仲間かわかりますか。

①線虫、②アリ類、③クモ類、④エダヒゲムシ類、⑤ハサミコムシ類、⑥ササラダニ類、⑦ソコミジンコ類、⑧カニムシ類、⑨マルトビムシ類、⑩カマアシムシ類、⑪ササラダニ類、⑫ヤスデ類、⑬ヨコエビ類、⑭クマムシ類、⑮陸産貝類、⑯ヒメフナムシ類、⑰トビムシ類、⑱コウチュウ類（アリヅカムシ類）

この切り絵は展示しますので、是非ご覧ください。

最後になりましたが、切り絵を作成いただきました萩野康則氏にお礼申し上げます。

(中村 修美・学芸主幹)

催し物のお知らせ（7月下旬～10月）

あなたも参加してみませんか

シリーズ	行事名	実施日	実施時間	対象(人数)
企画展示	土の中のワンダーワールド	7月17日(土)～8月31日(火)	9:00～16:30 (※7,8月は17時まで閉館)	一般
	カエデ&もみじ	9月18日(土)～12月5日(日)	9:00～16:30	一般
季節展示コーナー	埼玉県の絶滅動植物	5月11日(火)～9月17日(金)	9:00～16:30 (※7,8月は17時まで閉館)	一般
	カエデ&もみじ	9月18日(土)～12月5日(日)	9:00～16:30	一般
特別展 (川の博物館第2展示室)	葉の世界(仮称)	9月18日(土)～11月14日(日)	9:00～17:00	一般
体験工房	小石のアクササリー	7月10日(土)	13:30～15:30	一般・児童生徒とその同伴者(32名)※1
	木の葉でアート	10月9日(土)	13:30～15:30	一般・児童生徒とその同伴者(32名)※1
自然史講座	「レンズを通してみた 落ち葉の下の世界」	7月25日(日)	13:30～15:00	一般(100名)※1(参加費無料)
	「化石の調べ方」	8月1日(日)	10:00～12:00 14:00～16:00	中学生以下(各15名)※2(参加費500円)
	「クマムシを探そう」	8月7日(土)	10:00～15:00	一般(30名)※2(参加費300円)
	「授業に役立つ自然史体験講座」	8月19日(木)	9:30～15:30	教職員、公民館職員のみ(32名)※2 (参加費無料)
	「植物の調べ方エ」	9月25日(土)	10:00～15:00	一般(15名)※2(参加費300円) 秩父鉄道波久礼駅集合・解散
観察会	「岩畳昆虫観察会」	8月28日(土)	10:00～15:30	一般(30名)※3
	「岩畳アカトンボ観察会」	10月2日(土)	10:00～15:30	一般(30名)※3
	「多様なカエデの観察会」	10月16日(土)	11:00～15:00	一般(30名)※3 三峯ビジターセンター集合・解散
その他の事業	夏休み理科相談室	8月21日(土)・8月22日(日)	10:00～16:00	児童・生徒とその同伴者※4

- ※1は、当日申込です。受付順で、200円の材料費が必要です。
- ※2と※3は、事前申込です。申込順です。開催日の1ヶ月前から受け付けます。「往復はがき」か「Eメール」で、お申し込みください。
- ※4は、当日申込です。受付順です。入館料は必要です。
- 詳しいことは博物館にお問い合わせください。

基本理念 きずな
生きる力を育て絆を深める埼玉教育
 埼玉県教育振興基本計画を策定しました。

埼玉県立自然の博物館ニュースレター 澁 第13号 平成22年7月15日発行
 編集発行 埼玉県立自然の博物館 〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1
 TEL 0494-66-0404 (総務担当) 0407 (学芸担当) FAX 0494-69-1002
 URL <http://www.shizen.spec.ed.jp/> E-mail shizen@po.kumagaya.or.jp

